

大会派遣・研修報告書	
1. 大会・研修会名	令和3年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会
2. 研修期間	2021年8月9日(月)～11日(水)
3. 派遣者	久原裕未(佐世保)
4. 日程	9日(月) 移動 佐世保～新潟県 10日(火) 女子1回戦 アレセイア湘南(神奈川) 対 県立小禄(沖縄) 11日(水) 女子2回戦 盛岡白百合学園(岩手) 対 県立小林(宮崎)
5. 研修概要	担当ゲーム：上記2ゲーム ※今大会は事前研修とし、8月6日(金)に zoom にて審判会議・研修・諸連絡が行われた。
6. 研修内容	<p>■研修①「インテグリティ」 (公財)日本バスケットボール協会 審判委員長 宇田川貴生氏</p> <p>(1) コロナ対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 審判員の健康・安全も大切。健康管理を万全にし、不調の場合は必ず申し出る。クラスターの発生や誹謗中傷などのトラブルなどが報道されてるが、そのような事態を起こさないような準備をして臨む。 <p>(2) インテグリティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国各都道府県の取り組みの成果が見られた。しかし一時期と比べるとまた事案が起こっているのが現状。他のファウルと同じように TF を宣し、毅然として対応する。 <p>■研修②「新潟 IH 成功に向けて」 (公財)日本バスケットボール協会 インターハイ担当 有澤重行氏</p> <p>(1) 行動規範について</p> <ul style="list-style-type: none"> インターハイを担当する審判員としての自覚をもち、心身ともに最高の状態で試合運営にあたるための基準。本大会の意義を十分理解して臨むこと。 <p>(2) PGC について</p> <ul style="list-style-type: none"> CC を中心に、担当チームの過去の試合のスタッツた試合映像等を使って実施を(別途資料配布あり)。 CC はゲーム終了後に Google にて試合報告を行う。緊急時は CC→会場審判主任→有澤氏へ報告する。 <p>(3) 担当審判確認事項の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表者会議でチームに伝達される内容の共有。 本大会は JBA 競技規則に則り、試合後の抗議を受け付けない。得点やファウルの数など、コーチは常に確認し、間違いがあった場合にはデッドの際に速やかに審判や TO に申し出る。審判はクルーともコミュニケーションを取りながら、トラブルを未然に防ぎ、間違いがあった場合には速やかに対応する。 コロナ感染予防対策として、健康チェックシートの提出、ホイッスルカバーとレフェリーマスクを併用する。 <p>(4) PGC について</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段の PGC に加え、①処置ミスゼロに向けて②トラベリング③ショットの見極め(FUL)④RFG(インテグリティ含)の4点を共通事項として取り組む。 →トラベリングについては、足がフロアについたままボールを保持し、ミートするケースが多く見られる。基準やルールは変わっていないので正しく判定する。 TO との連携を図る。ゲーム開始 40 分前に審判控え室付近で TO ミーティングを行う。

■女子1回戦：アレセイア湘南（神奈川） 対 県立小祿（沖縄）

CC：岸本祥也氏（岡山）

U1：久原裕未（長崎）

U2：笹川宏子氏（奈良）

インストラクター：有澤重行氏

【クルーミーティング内容】

①基本的なメカニクスの確認（ベーシックポジション、Primary エリアなど）

- ・Lが見たいものをはっきりと示す。

②クロックの管理とTOとの連携

- ・角度によってはタイマーの位置がバックボードと重なるところがあり、Tが確認しづらいので3人で情報を握っておくこと、スローインの際のアイコンタクトをするようにする。

③プレイコーリングガイドライン（動画で確認）

- ・トラベリングのケース。
- ・UFのクライテリアの確認など

④クルーワーク

- ・ダブルホイッスルの場合や、OOBが確認できなかった場合のヘルプなど、Primaryを確認・尊重する。
- ・FTの本数やファウルの数など、基本的な情報を落とさない。
- ・タイムアウトの際は、まずリスタートの確認から行う。

【ポストゲームカンファレンス】

- ・RSBQの見極め。どこまでを影響があると捉えるかが課題。テンポセットとして影響がない笛を吹いていないか。
- ・誰がPrimaryなのか理解を深める。
- ・クロックの確認と訂正は確実にを行う。クルーで情報を共有する。

事例1：最後のFTが決まった後にゲームクロックが流れてしまった。

→正しくゲームクロックを修正してリスタートする。

事例2：ショットクロック14秒からオフェンスのエンドスローイン。正当にスローインされたボールをディフェンスが正当にカットしてOOB。ゲームクロックは12.6秒。ショットクロックが消されてしまった。

→ゲームクロックは正しくストップされたのを確認。ショットクロックは13秒を表示する。

■女子2回戦：盛岡白百合学園（岩手） 対 県立小林（宮崎）

CC：太田麻須美氏（愛知）

U1：阿部暢史氏（新潟）

U2：久原裕未（長崎）

インストラクター：有澤重行氏

【クルーミーティング内容】

①スカウティングや予想されるゲーム展開について

- ・身長差が大きく、ダブルチームやオールコートプレスが予想される。
→Cポジションでトラップがある場合のLのローテーション、プレスに対するCのヘルプポジションの確認。シリンダーの概念の確認。

②ベーシック・メカニクスについて

- ・昨日同様、Primaryエリアとベーシックの確認。
- ・理想的なローテーションのタイミングや、視野の分担の仕方を動画で確認。

③プレーコーリング・ガイドラインについて

- ・JBA配信の動画を使って検証。

④処置ミスゼロに向けて

- ・FTシューターやファウルの数の確認。場合によってはTOとも確認する。

	<ul style="list-style-type: none"> • 3or2 の判定で、速攻のケースはL やC も協力する。また、ピックアンドロールで Primary レフリーの裏側でショットが起こるケースも同様。万が一判断が分かれた場合は、少ない方の点数を入れておき、次にボールがデッドになった時に寄って確認する。 →TO ミーティングで TO とも共有しておく。 <p>【ポストゲームカンファレンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3PO の生命線は「C」。何か起きないか、何も起きていないか、“探しに行く” 姿勢をいかに見せるか。ベーシックの C ポジションから動ける範囲で 1 歩でも 2 歩でも工夫する努力をする。その際に見たいものを体の向け方で示す習慣をつける（顔だけ向けない）。 • 特にペイント内での C の Primary エリアで起こる現象は「絶対に」落とさない。L はクロスコールになるので鳴らせない。クルーが吹きたくても吹けない苦しさがあることを感じ取る。何か起きそうな時の直前に動くのではなく、その後のプレーの展開を予測してアングルを取っておく。 • FUL(Foot/Up/Landing) の L までしっかりと捉える。ショットが入ったかどうかはその後も確認できる。 • コーチとのコミュニケーションは大事。丁寧に寄り添うことで協力してもらうことも 1 つ、毅然と対応することも 1 つ。このゲームではどうだったかと検証する必要がある。 • このゲームの特徴は何だったか。それぞれ捉え方があると思うが、1 つは「通常より近接したプレーが多い」こと。では、捉えておかななくてはいけないことは何か→シリンダーの概念→シリンダーはどこまでを指すか→では…と様々な場面を想起して検証する。 <p>【反省・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> • CC を中心に行った PGC では、どちらのゲームでもベーシック（基礎基本）を重点的に確認した後、本大会の重点事項を確認した。初めて組むクルーと共通理解を図って臨めた点は良かったが、それをコート上で一貫してやり通すことが難しかった。 • ベーシックほど大切にしなければならないことを痛感した。マニュアルにあるベーシックなメカニクスを身につけること、ルールブック、プレーコーリングガイドラインにある内容を理解した上で、明らかなものを判定できないということもなくさなければ信頼されない。 • 試合中にクルーからプレーの見方や、コーチへの対応の仕方についてアドバイスをもらった。クルーがゲーム中にどこを見て、何を捉えているか、自分が何を見るべきなのか理解が足りない。プレーの予測をして、決断力をつける。 • C のメカニクスや Primary の理解を深める。
7. 所感	<p>初めてのインターハイ派遣で、非常に多くの学びを得ることができました。このような経験をさせていただいたことへの感謝を忘れず、一つ一つの試合に真摯に取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>今回派遣してくださいました御手洗会長、太田専務理事をはじめ(一社)長崎県バスケットボール協会の皆様に御礼申し上げます。また、コロナ禍での大会成功に向けて多くのご配慮をいただきました新潟県バスケットボール協会の皆様、北信越ブロックの皆様に併せて御礼申し上げます。</p>